Hiroko Yakushimaru

"Tragedy of W" original story by Shizuko Natsuki.
directed by Shinichiro Sawai. Haruki Kadokawa presents.

Wの悲劇

愛、欲望。そして悲劇の方程式

わたしは、スキャンダルな女。

《W》のひと文字に隠された
愛と憎しみのドラマの開幕を告げる1ベルが鳴り響く……

別荘で水入らずの正月を過ごす財閥・和辻家を突然の悲劇が襲った。当主・与兵衛を女子大生である摩子が刺し殺してしまったのだ。このスキャンダルを外にもらすわけにはいかない。一族は結束して外部の者の犯行に見せかける偽装工作を試みる。しかしその工作を警察に暴露するよう細工する者が現われた。事件の裏に隠された真実とは——夏樹静子の原作『Wの悲劇』が劇団「海」によって演じられている。しかしその舞台と同じように展開する〈悲劇〉が舞台裏でもクライマックスに向けて進行していた。そしてその〈悲劇〉の登場人物とは、舞台で事件の鍵を握っている和辻淑江を演じる劇団「海」の看板女優・羽鳥翔、刑事課長役を演じる五代淳、ヒロイン摩子役の菊地かおり、三田静香ら劇団研究生達。彼らが舞台で演じる『Wの悲劇』とともに抱えこんだ真実とは——

Hiroko Yakushimaru

"Tragedy of W." original story by Shizuko Natsuki.
directed by Shinichiro Sawai. Haruki Kadokawa presents.

Wの悲劇

Women
《W》それは女たちを表わすW……

〈W〉それは和辻家を表わすWでもあり、舞台と映画のドラマが重なりあって進行するダブル構造のWであるのだが、日本映画界初の本格的バック・ステージ映画というわけだ。

映画の主人公の名は三田静香、20歳。この駆け出しの劇団研究生が、舞台『Wの悲劇』のヒロイン摩子役のオーディションに挑み、最初は失敗するが、思わぬチャンスが訪れる。しかしそのチャンスの中には凄じいスキャンダルが含まれていた。それには舞台の摩子が抱えたスキャンダルと同じような〈悲劇〉が待っていたのだ。だが静香は現実の恋も忘れて、この〝女優〟の道を突っ走ってゆく……。

三田静香を演じるのは今夏のヒット作「メイン・テーマ」で20歳らしい色香と成長を見せた薬師丸ひろ子。前作とはうって変わったヘビィな役を力いっぱい熱演し、新たなキャラクターを創りあげた。静香に女優の道の厳しさを教える羽鳥翔役には三田佳子、そして五代には三田村邦彦、さらに静香の恋人役に世良公則、ほか中谷昇、清水紘治、香野百合子ら正月映画らしい豪華キャストが組まれた。

さらに映画の重要パートを担う舞台の設営・演出には演劇界の重鎮・蜷川幸雄があたり、映画でも舞台演出家として登場するのだが、美術や照明に至るまで細かな配慮を示し、リアルなスケール感を出している。監督には一昨年、「野菊の墓」で新鮮なデビューを飾った澤井信一郎。〝遅咲きの大物新人監督〟の第2弾として、その実力の開花が大きな注目を集めている。また映画主題歌「Woman～Wの悲劇より～」は薬師丸本人が歌い、こちらの大ヒットも大いに期待されている。

今、確かめなければ、
きっと後悔してしまう……

一年中花が咲き、マンゴーやパパイヤがたわわに実り、人々が幸せに住んでいるという夢のような島、地球の先っぽにあり真っ白いサンゴで出来ている美しい島……それこそ亡くなった父が幼い時に話してくれた神々が訪れる〈天国にいちばん近い島〉なのだろうか。16歳の冬休み、少女はニューカレドニア島へと旅立った。

「今、確かめなければ、きっと後悔してしまう」——自らの意志で父との約束を果たしに出かけた南の島で、少女はさまざまな事を経験する。見知らぬ土地でのアクシデント、人々の善意、潮騒の中に隠されていた悲しい想い出、そして愛の豊かさと大きさ。

「お父さん、本当にこの島だったの？」〈天国にいちばん近い島〉という真意は何であったのか……ひとりの少女の爽やかな冒険と成長を美しい音楽と映像で綴る愛と感動のファンタジーである。原作は昭和40年に書かれた森村桂の同名小説。著書の体験的青春をユーモアをまじえ、鮮明に綴った同作は若い読者の共感を呼び続け、永遠のベストセラーになっている。

私がみつけた、愛と夢あげる……

ヒロイン・桂木万里には、この夏「愛情物語」でスーパー・アイドルに成長した原田知世。ヤボな黒メガネをかけ、ドジなところがあるが次第に明朗に、積極的になっていく少女のキャラクターを南の島いっぱいに見せてくれる。共演者は「時をかける少女」に続くコンビ2作目の高柳良一、ニューカレドニアに住む日本人III世の役どころである。そして知世の〈青春の旅〉に〈大人の旅〉の味を与える重要な中年カップルに、「ねらわれた学園」の峰岸徹、赤座美代子。ほか乙羽信子、泉谷しげる、室田日出男、松尾嘉代、入江若葉らベテラン陣、そして元YMOの高橋幸宏らが揃った。

監督は知世のデビュー作「時をかける少女」を撮り、その初々しい魅力、まさに映画のために生まれてきた個性を鮮かにスクリーンに焼きつけた大林宣彦、知世の成長をいかに描くか、注目するところである。また映画主題歌も前作同様、原田知世が歌っている。

撮影のほとんどはオーストラリアの東に位置し、世界地図にもっとも遅く載った島、ニューカレドニア島を軸にして緑の宝石をばらまいたといわれる諸島、イル・デ・パン、ウベア島で行われた。スケールの大きい映画処女地での、美しい自然とファンタジックな音楽があやなす感動の青春映画である。

L'île la plus proche du ciel
Haruki Kadokawa presents

12月15日(土)ロードショー！

劇場窓口にて鑑賞券お買い上げの方に「Wの悲劇」または「天国にいちばん近い島」のオリジナル・ポスター付
●特別鑑賞券好評発売中！大人券1,200円・学生券1,100円

新装開場(千代田劇場改め)
有楽町・東宝映画街
日比谷映画 03(591)5353

有楽町・新日劇前
ニュー東宝シネマ2 03(571)1947

道玄坂109前
渋谷スカラ座 03(461)1929